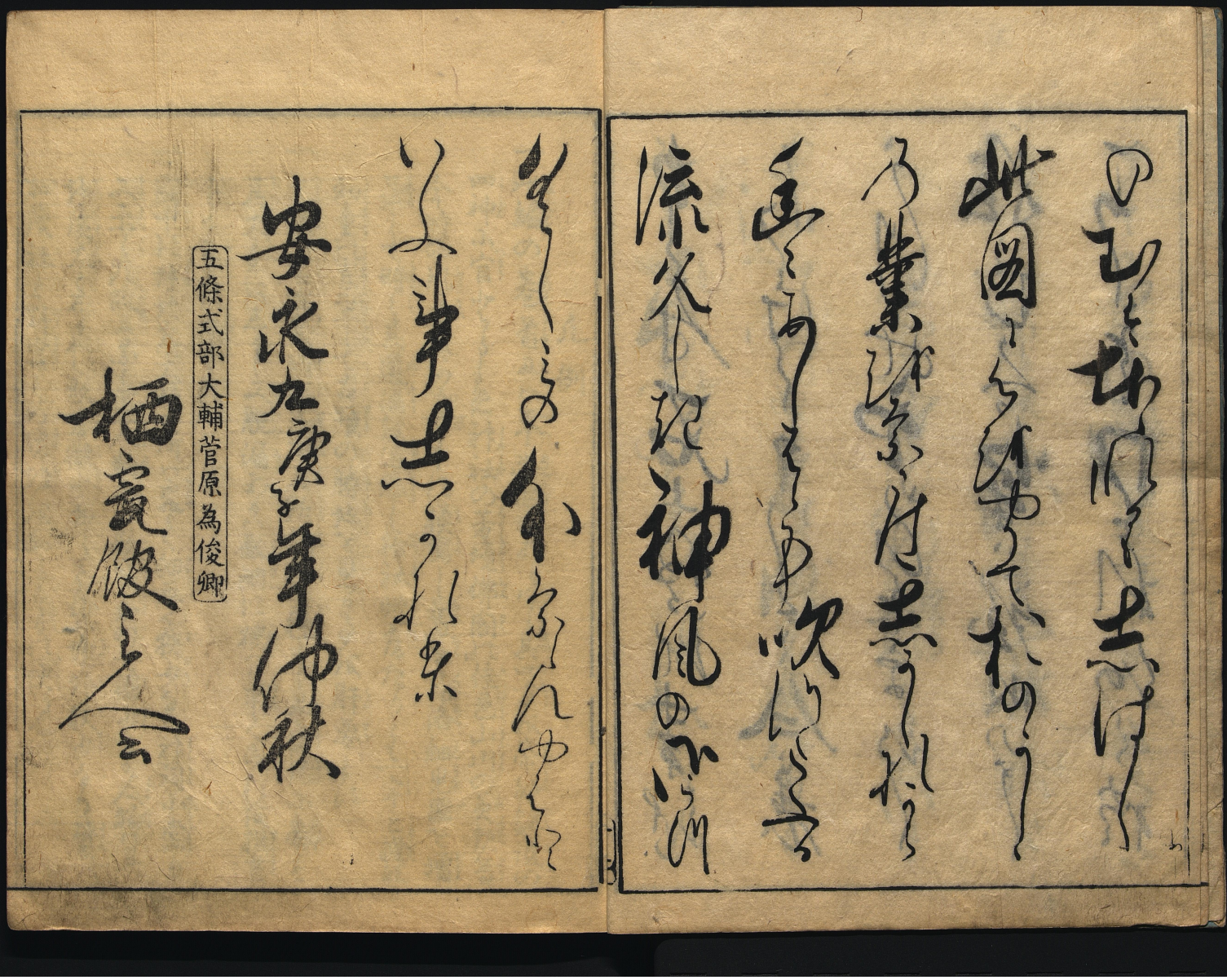
都名所圖會

一

平安城

再刻



五條式部大輔菅原為俊卿

凡例

一此編の巻首は平安城をあらハし其四方及帝都遷後の四神小宮少しも洩れず神社の芳境佛閣并佳邑山川の美勝名今時の風景のまゝ摸寫し檀西の花洛細見圖を増益して時々其遺漏を巡歴し拾社卅有餘一字も洩さゞる様専要とす

一文談の宮古蹟時記山城名所紀行を按じ且舊記小冊子を其大意を取り又脱漏あるハ微細に捜索求めて校撰書をる事を専とす

一圖中に境地廣大なる所は省略して細画と狭少なる社祠小堂を又示し故ある毎に人物あり形容を以て微少なる人物は其地廣大なる形容微少なるに比し境地狭少なるハ称ハ加茂社と野宮との境地の如くなれバ便りとす

一圖中の間々人物れ大画あり四時の佳紀と賞して桜楽の地を紀せんため洛東の花見宇治螢狩等と

一圖中れ名所ゟ連綿の地なり園乃上に係系をつくあれと繋く八幡神宮寺より寂院ゟ清水あるしい宇治乃橋も恵心院興聖寺まてとの連綿の地と

一比叡山の圖なり東塔坂本ゟ打近江志賀しがも西塔なり連綿の地ゟして除くことを得ざる山海名紀行も拾刈乃界かとでもまた絵たくしだいまた圖と

都名所圖會巻之一目錄

平安城首

内裏圖　上御霊　中川　相國寺　定家ゟ塔　法然水
京極八幡　華神社　絲井　妙覺寺
妙蓮寺　妙顯寺　本法寺　千宗佐家
大應寺　法花園院　陵　報恩寺　証川　一条戻橋
小野小町草紙洗水　安倍清明社　水火天神　興聖寺
瑞光院　浅野家　菩提所　本隆寺　撰葉宮　石像寺　家隆ゟ墓
欽喜寺　石神社　聚楽亭旧地　般舟院　定家ゟ嫁　式子内親王塚　時雨の亭
西陣織物神　淨福寺　太超寺　阿弥陀寺
十念寺　本滿寺　廬山寺　淨華院
下御霊　華堂　清荒神　高田本誓寺
妙滿寺　本能寺　信長ゟ塔　頂妙寺　源ノ位頼政旧跡

高松神明社　西行水　御所八幡　天性寺
矢田地藏　生洲　三条橋　檀王
瑞泉寺　先斗町　六角堂　池坊　錦天神　千鳥ヶ池　竜宮社
圓福寺　蛸薬師　虎薬師　長金寺
腰掛地藏　泉式部塔　軒端梅　誓願寺　赤茶石　羽二重井　柳の水
空也堂　糸釜責　神泉苑　不来薬師

畫工北齋錄編地
勝地翁不斜勞跋
安帝錄在目中
和克明

内裏之圖

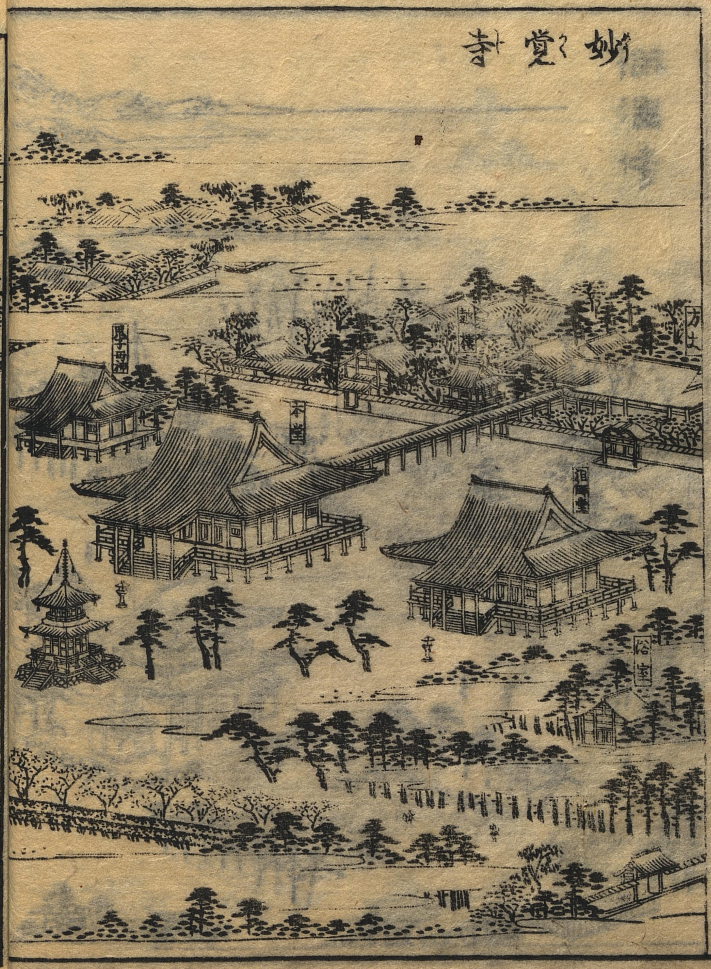



上御霊社
宝蔵
君の代を
九重ふ
八所
高清

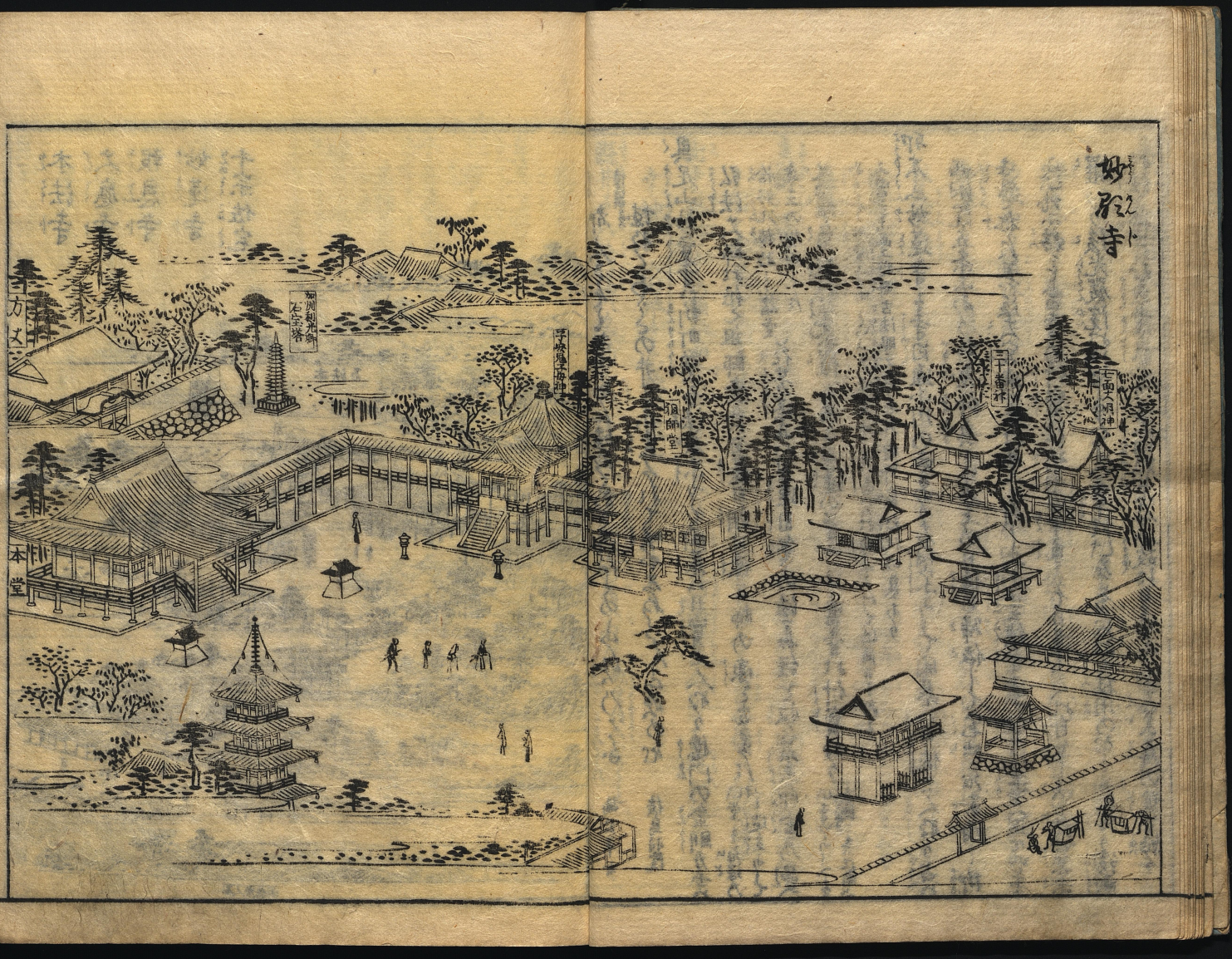
上御靈社を平安城鞍馬口通り東にあり多の神八 早良親王 伊豫親王 藤原吉人 文室宮田麻呂 橘逸勢 藤原廣嗣 吉備大臣 火雷神
等の八所の御靈あり 末社院の御守太慶二年小鎭を奉ると云ひ傳へ出でます
う故に出雲語れり御靈ともいへり例祭八月七日 當社の御旅所
○早良親王 光仁帝第二の皇子なり 延曆十九年九月朝廷 公卿
議をあつめられ 淡路國に流し給ふ 同國高瀨の驛に
ゐ給ひしが 逆靈出でゝ 祟をなし 同十九年七月に崇道天皇の追號
あり 紀伊郡藤森神社と 同神なり ○伊豫親王 崇道天皇の御
子なり 平城帝の御
逆心あるよしの風聞ありて 飲食を通ぜられず 薨ず ○藤原吉人 崇道天皇の
妃吉子と號す 伊豫親王の御母なり ○文屋宮田丸 承和十年十二月に謀叛を企
て伊豆國に配流に逢へり ○橘逸勢 右衛佐位下 右京の人 淳和帝の御時の
能書にて右京二等の員外なり 仁明帝 承和元年七月に謀叛の事あり
くまでも伊豆國に流罪せられ 九月に死せり ○橘廣嗣 左京宇合の第一子
大宰府に於て叛逆ありしが 東人宣方に從ひ駈向ひて戰ひ 廣嗣敗北し
て自刀をなして首を落して 其頸を太宰府に於て梟す 天平五年に歸朝し 光
仁帝寶龜二年薨じ 年八十二歲 ○火雷神 北野天滿天神なり
觀音堂 聖德太子尊像 聖德太子の作にて聖記世音と刻出でゝ 其
中に御靈ます 此流を一名 鴨川と云 東に流れ 一名 東堀川とも號 今は
川なり 堅神堂 厩 法成寺の間を流れ 一名 土御門殿の前を流れ 中川に
ふゆるき空堀 墓と云ふものあり
山ぶきそゝぐ水をせんぐ本陰をゝ 中川の宿 光俊
御旅所 この中川の大路さがりにあり


相國寺
佛殿
法堂
祖師堂
山門
開山堂
塔頭
陸橋

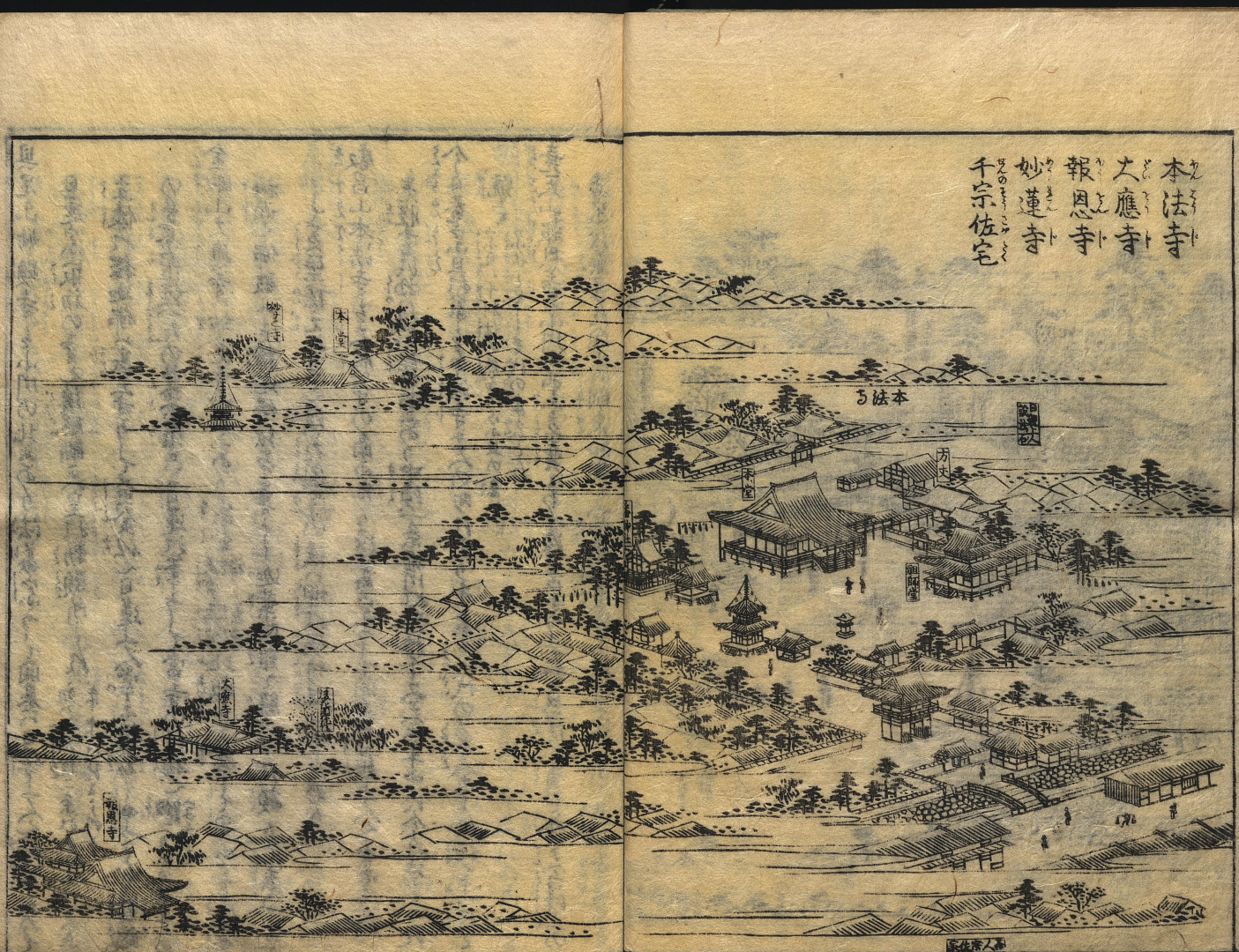



妙覚寺

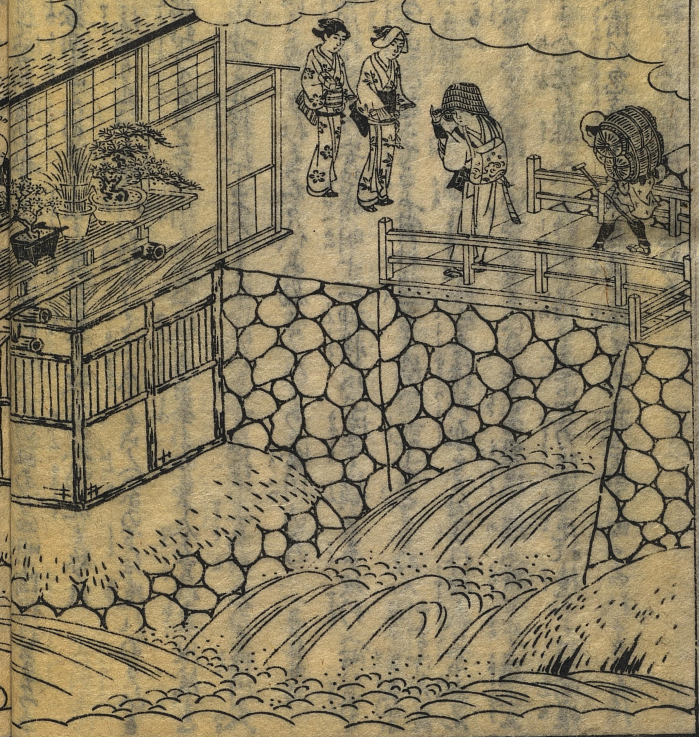
萬年山相國寺大禅寺と号し出川の北にあり五ヶ寺第二にして開基を夢窓國師二世を
紹碧後小松院勅命ありて明徳二年足利三代の将軍義満公建立ありし佛殿に釋迦
佛を安置し迦葉阿難を左右に連立たる像を脇壇に安じ祖師堂に夢窓國師
の像あり後水尾院勅願ありて再建ありて同帝の神牌を安置し二重塔を十日如意院
本尊とせられ後水尾院の御再建と云門は圓通閣と号し沐猴功徳池と號し橋
は三條大橋とうたひけるを庫裏の傍に畢沙門堂を安じ其に激人まで塔頭
普光院より移す茶人定家卿の墓あり　墓前に石燈籠一基あり盤に曰く貞享二年
蟬月右中將藤原經朝卿建之とあり
法然水の塔頭松鶴軒にあり　法然上人の木像を安じ給ふ
系極は幡宮八上御靈に跡あり諸社根元記に曰古は三條京極にあり應仁の兵火に
うつを盛衰記に曰系極寺を目吉の末社ありしを今遷宮の儀ありて祇園社の
出雲路神と号し旧地を系極と称し東之
幸神と号し旧地を系極と称し東之
縣井戸は洛陽名所古一条より小東洞院の西にあり　縣宮傍にあり
都人きてもおらるん堪かくあるよのつゆのみなかろ　播公平女
堪かくあるこの井こぶきてはやきえんとぞのむ　後鳥羽院
眞足山妙宣寺は新町頭にあり法華宗にして開基は日實上人なり樓門の金剛力士は
弘法大師作と祖師堂は日蓮日朗日像三師の像を安置し
恰好比類なし諸堂　花芳譜は日蓮自筆の法華経を収む紫印金乃曼
建立の規矩にん
茶羅を開く龍口曼荼羅を共に日蓮の筆にして當寺の什寶なり
あり妙宣寺町と号し文正年中本乃吉ハ此命ありて山地を
又當寺は画工狩野古法眼元信畢生狩野家累代の墓あり
卯本山妙蓮寺は寺因通小川の西にあり石門を入て開基は日像上人なり古は
西洞院五条にあり柳原伸具らこの日像を帰依して宅地を寄附し柳
寺と称し其後大宮通四条より南へ三丁程寺通大宮に遷る正九四年
ホ式地ホ移と當寺の什寶は祈雨の本尊と七日蓮上人自筆法華曼荼
羅なり後光厳院御宇文和二年大旱に七日祈雨の法を修し程川のかくりに立て雨
れ法を修せしむ霊雨あり大雨数日ホ故に日蓮上人ホ霊雨の號を賜る


妙法寺
本堂
多宝塔
鳳師堂
三十番神
七面大明神

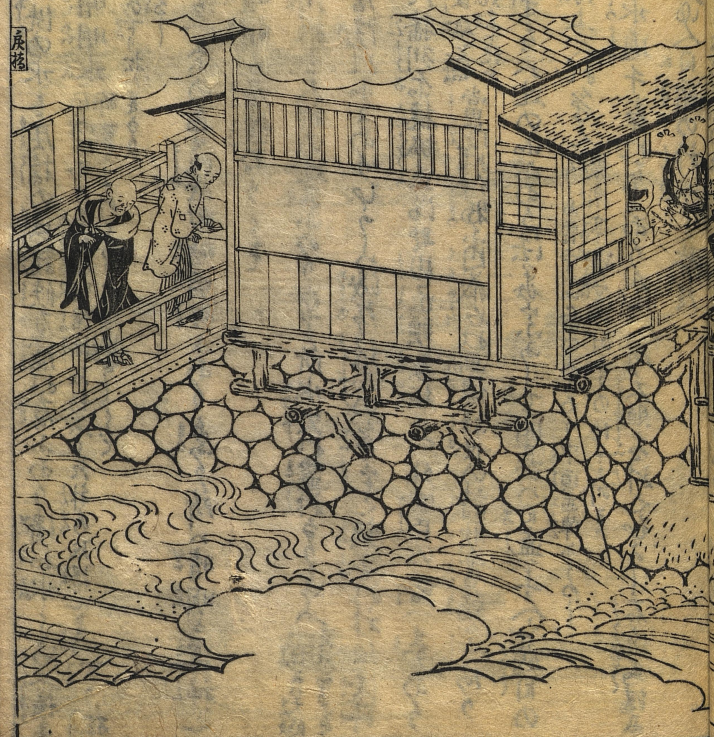
本法寺
大應寺
報恩寺
妙蓮寺
千宗佐宅



一條戻橋



和泉式部



戻橋

贈礼の要人
古の橋成通る
事嬢ふる橋
のなるらん
那うつ旅立
人ことの祝
賀時通ふ
あれよみと
ふるつべき



小野小町雙紙洗の水を戻橋の艮猪熊通上ル東側にあり清水くゞり傳ふ

小町塔あり晴明水所在あり安陪晴明宮法拔ありて社あれ共湮滅して下り松

故ありて世ふるえる

安陪晴明社を一条の西堀川町晴明町ありあり所ハ晴明が靈神之古跡也晴明の居館ありしそ

水火天神ハ堀川より小天神の辻子ありあり所水火天神靈神ありしそ（一説ハ天滋天神ともを

瑞光院ハ安居院より小ありむかい淺路孫兵衛の家宅之鎮守なり祭祀淺路稲荷と称ス播州赤穂城主浅野内匠頭長矩其外家臣の塔一基あり

義士四十六人戒名を彫

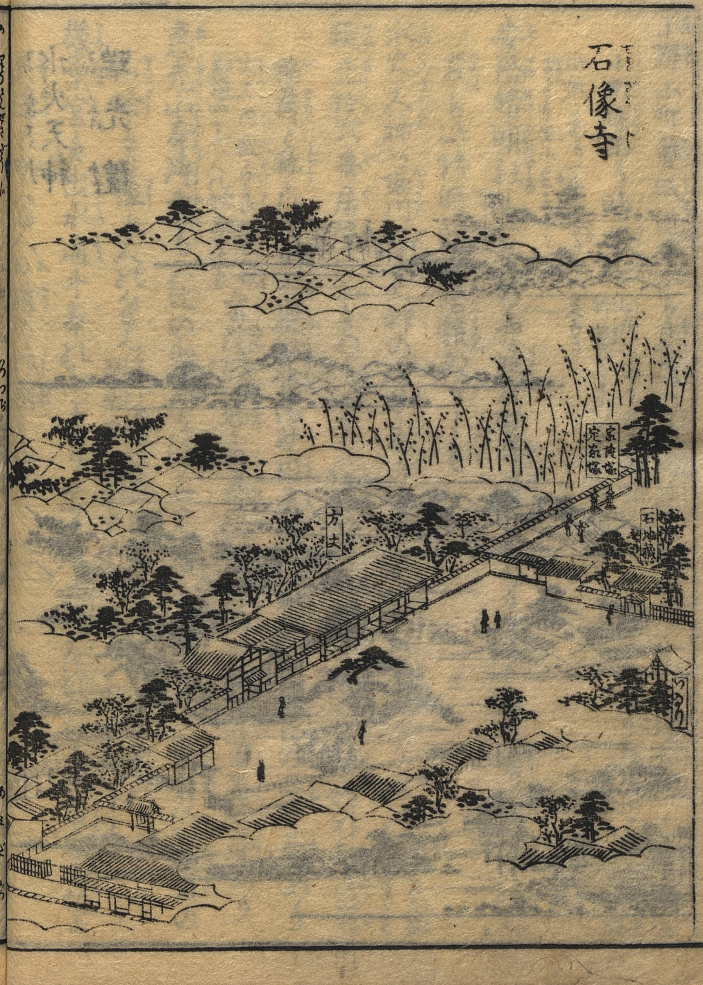
大石内蔵之良雄を始め當院より仕物小間物飾り付け畫像辞世の詩歌書翰等あり

恵光山本隆寺ハ辻の小ありあり法華宗ありて開基ハ日真上人之題目の石塔あり像上人ハ多くの當寺ハ一条の西にあり中須西陣ふるし

聚楽亭造営の時今の地ありしを

撰栗宮より出水通千本より東へありあり所天照大神之むかし右近馬場より天降ありし地ハ日隆の神明と称ス

石像寺



家隆山石像寺より千本通五辻の北にあり浮土宗にして本尊阿弥陀佛を菅公自作の地蔵堂を弘法大師の作りあらたに像れ石地蔵あり信ある霊験いちじるし石像寺前上総介藤原朝臣家隆卿の塔あり

北向山歓喜寺 上ノ京の西にあり真言宗にして本尊歓喜天を弘法大師の作り當寺を淀城帝の勅願所として開基の弘法大師ここを石神社を鎮座寺の西にあり所長六尺ばかり巌石あり土蔵の中に安置せし舊地大内裏北境内にあり〳〵〳〵

聚楽亭 旧地を一条の南一条の北にして東は大宮を限り西は朱雀通今は千本通

城郭 大閤秀吉公天正十二年小城郭を築き壮麗ふかく盛に重なりまわし〳〵その殿閣は七宝を鏤め名木奇石数あつめ秦の阿房宮前漢の未央宮もかとばかりぞ宝閣あり四十六年四月行幸ありて祝宴ありしが後関白秀次公ここに住めしが文禄四年の滅亡より悉く毀ちこれ寺院となりて今は聚楽の名のみ遺り町名のみ残りぬ

凡百二十町あり

聚楽組 廻る町数


寺開事始之碑
寛永寺子
清水堂
寛永寺子

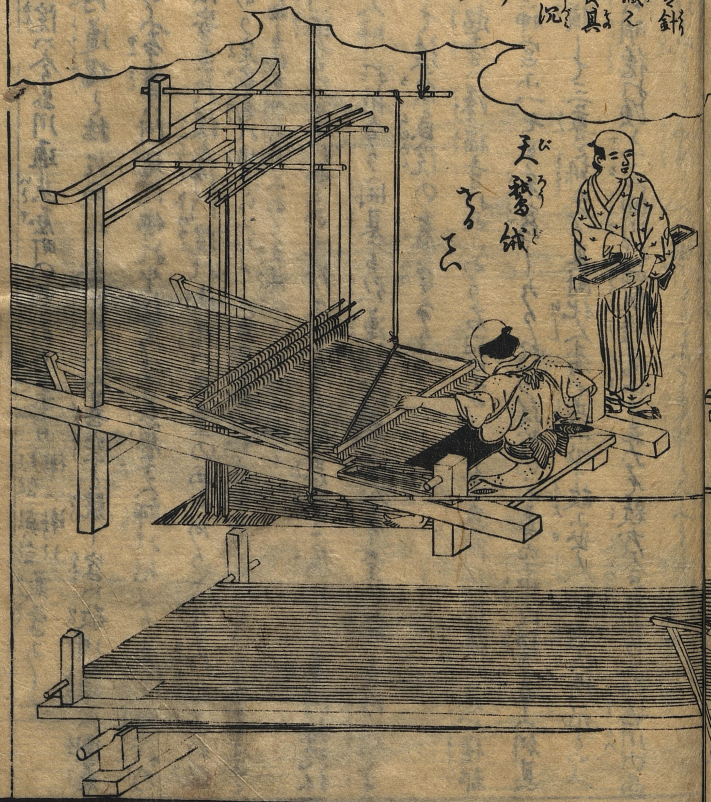

般舟院
四天門

西陣の町小袋あいこしらへ
くろ〳〵の呉服織出をする
際限なし金襴錦唐織の
ろくるとおりうつす紋織人を
そろへ時の模様の地紋を紙に圖し
竪横小糸ぬく筬引入
其糸数何かほど定め
其織物の機組を白
くろ糸にて十分一の
雛形に拵るあり合を
求めそよ〳〵糸
配してくろ〳〵の地紋
あろうか紋織出さんと
久敷けて高機と



錦織躰

天鵞絨之針
金板入て織え
紋天鵞絨の裏
針金入ざる
そこそこ
かくのごとし

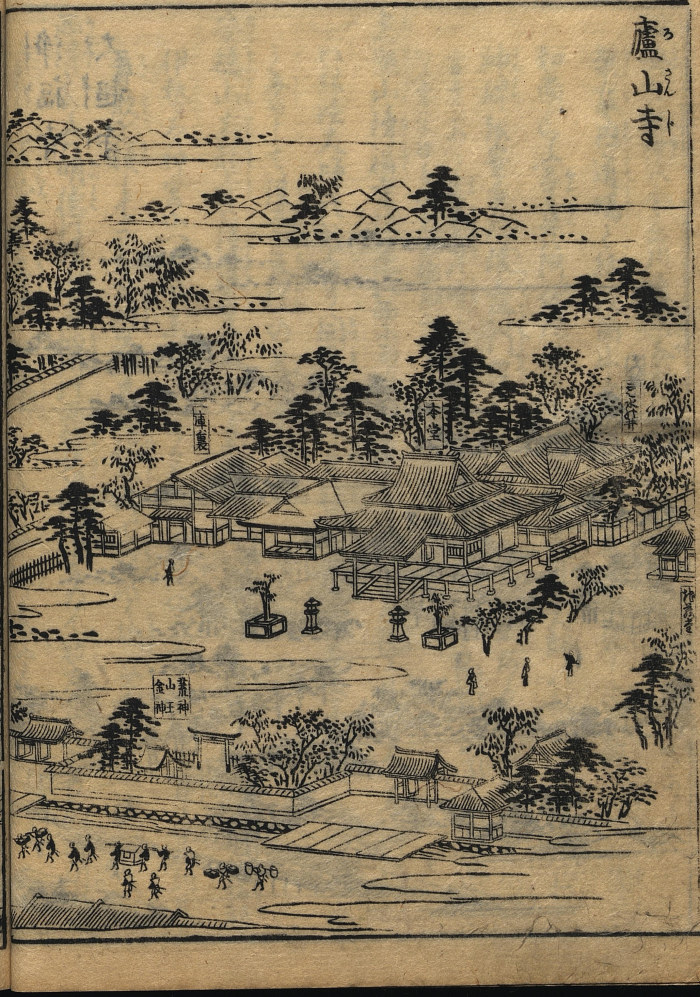


天鵞絨之躰

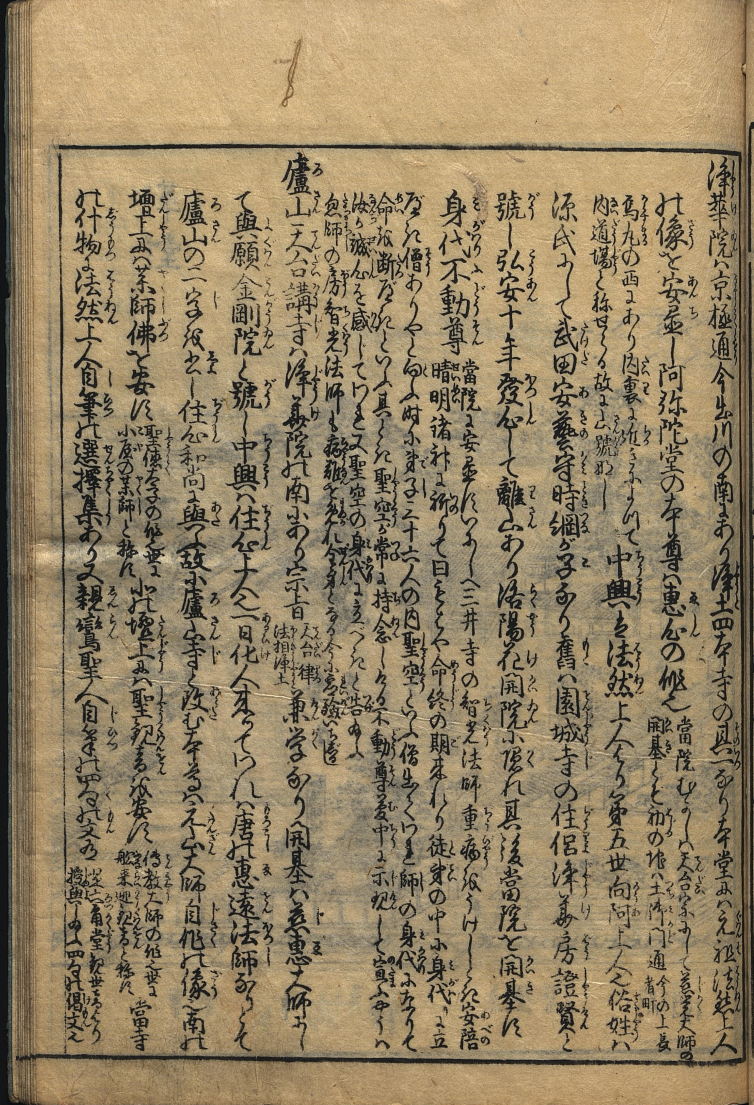


般舟三昧院ハ今出川通糸屋町の西ニあり宗旨
禁裏内道場と称ス開山を恵篤上人善空と號し
和尚ハ本尊ハ阿弥陀佛ハ坐像ニして慈覚大師ハ作なり帝王歴代の
神牌故安堵ハ後土御門院ハ御墓ハ本堂の西ニあり式子内親王の墓
當寺ニあり定家葛ハ墳ともいふ此定家ハ定家卿の別荘なり門前の辻ニある松定家の
ハ當院初ハ伏見里指月ニあり文禄二年ニ此地ニ移ル
恵照山浄福寺ハ一条ハ西ニあり浄土宗ニして智恩院ニ属ス本尊阿弥陀仏
ハ弘法大師ハ作なり開基を弘蓮社深譽上人本堂の額ハ浄福寺
と書して後奈良院の宸筆なり
安穏山大超寺ハ浄福寺ハ西ニあり右ハ宗ニして本尊阿弥陀佛ハ恵心僧都
伊勢ハ神宮ニ一七日参籠シ給ひし時ハ弥陀の三尊空中ニ現シ給ひし刻ハ
尊形ニ摸して三尊を刻ミ給ひて其時化人来りて共ニ作り故ニ世人神明の作なりと
西陣といふハ明徳ハ頃ハ細川ハ両執権ニて中ニ和ハ敵対ニ成ル故ニ
一条より上ハ西を西陣といひ仮りに本陣ニ対して


浄華院
庫裏
本堂

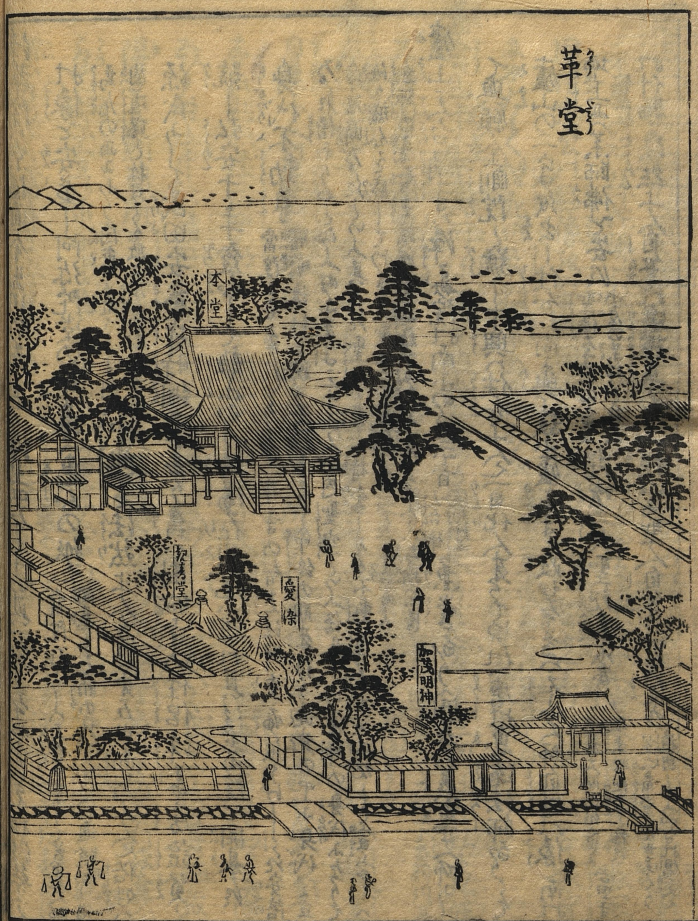

廬山寺
本堂
庫裏
鎮守
金山王神

蓮墓山阿弥陀寺は京極通錦馬代南にあり浄土宗にして百万遍に属す
本尊の阿弥陀佛は弘法大師の作にて開基は清玉上人なり織田信長公
同信忠公の影像は安土同所の墳墓の外明智光秀弑逆の時本能寺
にて討死の長教寺の墓あり清玉上人信長公の罷かりし
葬宮山十念寺は阿弥陀寺のあたりの名目なり弘法
大師の作と開基は真阿上人永享十二年七月二日に寂し遺命によりて多羽川
広布山本満寺は十念寺の南にあり法華宗にして開基は日秀上人之祖師堂
日蓮上人の像は初丹波国黒田村にあり所の人熱病に発して死せるの
あれば則此像の崇ありとて櫃に入て山中に捨んとまうし是霜雪をおかして
あり故山中に讀経して奉りしかば忽ち病癒よし此尊像は
得ては則同所生福寺へ安置せしが後宇津宮心覚という人
ありて都へ登り市中を售ありきけるに高祖の像なりとて速に
買ふべしと当寺へ安置せり（新著聞集にも出たり）

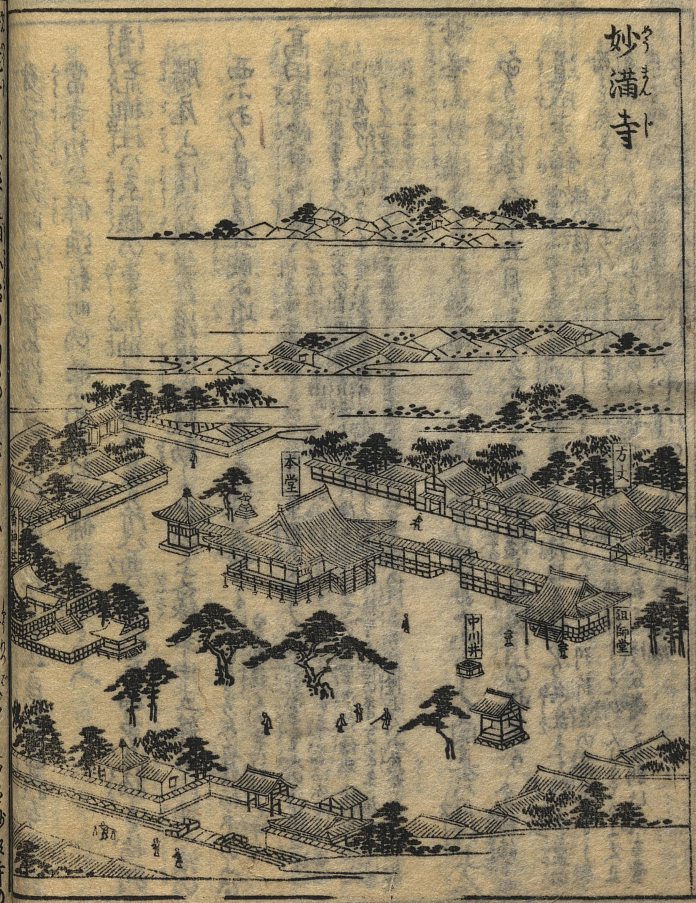


浄華院は京極通今出川の南にあり浄土宗にして百万遍に属す
弘法大師の作と安置の阿弥陀堂の本尊は恵心の作にて当院むかしは今の上長者町
烏丸の西にありしが秀吉公聚楽第を築かれし時細川通
此地に移せる故に此号あり中興を法然上人と号し第五世向阿上人の俗姓は
源氏にして武田安芸守時綱の子なり舊は園城寺の住侶浄華房證賢と
號し弘安十年冬山を離れ洛陽の花園院に居れり後当院を開基と
身代不動尊当院に安置せり（三井寺の智証大師重病なりけるに紀安陪
晴明諸社に祈りて曰くもし命終の期来りし徒者の中に身代に立
つべき僧あらば示すべしと祈りければ二十六人の内聖空という僧出たり
命終断えんとする時聖空の帯を持念しければ聖空の身代にたちて
死し滅んを感じて聖空の身代にたちて死し滅んを感じて
負師の寿命を引延ばしたりとぞ今も不動尊を安置せり
廬山寺は浄華院の南にあり宗旨は律兼学なり開基は恵心僧都
て與願金剛院と號し中興は住空上人一日化人来りて唐の恵遠法師なりと
廬山の一字を改めて住空和尚と與え故に廬山寺と改むとぞ
塔上に六師佛を安置せり（聖像なるべし）
小屋の六師と称す
仏具物は法然上人自筆の選擇集あり又親鸞聖人自筆の四句偈文あり


下御霊社


革堂
本堂
弁財天
愛染
浅間神

下御霊社ハ系極通春日と云
同神殿ハ所の社あり上ル御霊と同日祭り
行願寺ハ下御霊の南ニ隣る一名千本寺又今宮ともいふ本尊十一面千手観音
八大龍王像行円上人の作
西國第十九番札所又洛陽巡礼の第四番なり
加茂明神の石塔五輪の塔婆
して高サ一丈余ありと語伝ふ
當寺の開基行円上人ハ原鎮西の人なり實弘多居あり行者十八の年ニ
二年ふ皇城ニ遊び頭ニ寶冠をいただき身ニハ華服を着せる四人
都れ人華上人と呼ぶ行円ハ千手大悲陀羅尼を持し良材を求ム
紀るの像を刻人事を願ふある夜の夢に老人れ沙門来り霊木を送る
といひて覚め翌朝果して一僧来り告るやうを鴨社北傍ふ苔蒸したる
擬樹あり六齋日毎ニ千手れ神呪を誦する聲聞へむもの鴨右神宮
ふれ樹下ニ入降つゝみくゞ則行円ニ仏身を求ム則神官にうけ
菩薩の像を授きぐみ行願寺を営て安置ニたてまつり當寺の本尊と
又行圓華服を常ニ着るゆへ寺を華堂と称ニ其後行圓の
弟子仁弘法師ニ絵樹を授てスハ人の像を彫り西山良峯寺ニ安置
當寺初ハ一條通新町の西ニあり故ふ一條華堂と云
清荒神社ハ系極の東荒神ニふわる多所ニ面ハ贋れ荒神あり初を称別
勝尾山清ふ鎮坐ニ後陽成院勅ありて文禄年中五條坊門油小路の
西ニあり其後北國の近ニうつゝたゝ比ニ移る
古代ハかゝる仏近傍ニあらず比宮勅建ニて荒神口と呼ぶ
高田専修寺ハ坊ハ
ハ本町二条のほとりニあり初ハ東洞院ニ建ニ其後同し町ニ面ふ移る
ニ又新ニ町ふ移る田町ふ移る
ふの化教書を入六十三方の自画の像を安置ふ像ハ親鸞聖人の作ニ
附属の物ニ一本堂ハ六間四面ニ二重ニ造ニ本尊ハ阿弥陀仏
ニうて二尺三寸の仏を作ニ堂ニ安置ふ堂四面の回ハ廊下ニ
水ハ三重堂の傍ふあり
妙塔山妙満寺ハ系極通二条の南ふあり法華宗ニて両墓ハ日什上人
あり永徳二年五月ニ建立あるその比ハ後ふ法華川の西ニあり
道成寺鐘當寺ふあるハ元刻ニ日高通成寺の鐘あり銘あり五乱ニうつて伽藍回
禄の後所ニ移ル
ニ又正十六年ニ月ニ紀刻ニ新宮の鐘当寺ニ来る
ハ然ニよく撞ニ響を遠ニ聞ニ故ニ鐘ニ鋳ニ入ル
ありて次ニ鐘ニ入ル平あり



妙満寺

本能寺の系極通押小路の南にあり法号妙宗にして勝劣派なり
日像上人より四世日齊上人開基ハ日隆上人初の地を六角の南油小路の東にあり今本能寺町
中興権大僧都日與上人諸流の書誌著を方々の前の門ハ聚楽城ありしに移を
勝物名義あり三十番神ハ社ハ原
愛宕山権現の古社なり尾葦ありて織田信長公塔本堂のあまりの大柿一本
為自製を委ハ具を雑地の絶よふ事跡の地誌
信長記ニみえり題目曼陀羅宗祖日蓮上人のほん表具を
ありまれ故世ニ幸往ます切しの人
聞法山頂妙寺ハ二條柳東ハ小二町ふあり石門宗一致派にして開基ハ日祝上人
ありり権大僧都法印みて姓ハ千葉氏下総國千葉郡の人ニ永正十年四月
十二日寂ハ年八十七當寺樓門の二天左を持國天西ハ多門天ありて運慶
安阿弥の両仏ニ霊験新ありて常ニ請人絶を
樓門の前ニ二天の拝殿あり
細川治部少輔源勝益寺地ハ寄附して頂妙寺と号を初の地を新町通
鷹司今ハ下長者ふあり真後中御門町ありの小高名所ハ旧地ふるを
天正の末ニ此地ニ迁ル



本能寺





源二位頼政の旧蹟ハ大炊御門ノ北今の竹屋町京極ノ西ニあり

家集　二月のはいくらびとゝ花ゆへこゝにたつねふるゝ

はるくるゝ梢ハけふ咲そめてかすみのうへにのこるしら雲

うたゝねのひるのまくらに梢のこゆりのまゝ咲めかしにあやしのうへにちりしく花をはらふ

君のすむ宿も梢おさゝめるこゝろにしとゝ花奉る　頼政

こゝろくるしくそやむきなとゝ宿の梢ハ給れさりけり

高松神明ハ姉小路新町ノ西ニあり北ニある羽院の帝長ノ守師行ノ霊を祭る社

の内裏を造らしめ　当社ハ内裏の旧跡と今社僧ハ称す非明ニ実ハ性院と號を

西行水ハ三條坊門室町の東ニあり　洛中ノ名水ニて西行上人ハ此地ニ住居ノ

此井ノ掲板を取て喉ヲ潤ヒしと

曼陀羅山天性寺ハ京極ノ二條ニあり浄土宗ニて本尊阿弥陀佛ハ恵心ノ

作ニて織姫観音　中将姫ノ記世ノ化身ニて中将姫の像　自作ニて

故ニ此観音作ハ本堂ニ安置ス

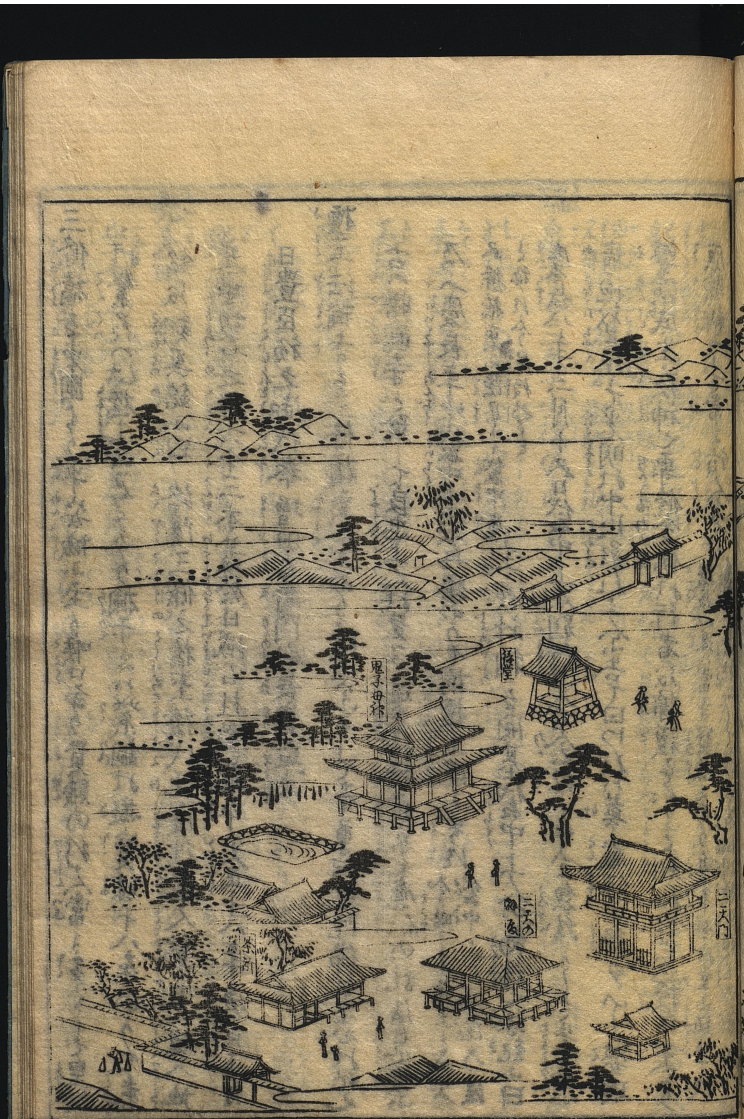
矢田ノ金剛寺ハ天性寺の南ニ隣る浄土宗ニて本尊地蔵ハ満米上人ノ

作ニて又薬師　本堂ニ安置ス



生洲

生洲(いけす)とは高瀬川筋二條の
小橋あり川魚に橋杭(はしぐい)そのうらひろ
そろえ魚多く料理(りょうり)ごとくりん
酒肴(しゅこう)を商(あきな)う玉祥(ぎょくしょう)の巷(ちまた)に盛(さかり)
戰(たたかい)も張翰(ちょうかん)が千里(せんり)とく鱠(なます)も包丁(ほうちょう)
川辺(かわべ)にすゝめ洲(しま)と祇園(ぎおん)に風雅(ふうが)な
きんそう三弦(さんげん)のる曲(きょく)を奏(かな)でひょうり
ん所(ところ)の投(なげ)こんつぼ人形(にんぎょう)。


鬼子母神
三天門


妙本寺
本堂
三十番神
祖師堂

三條橋を東圖より平安城に至る喉口にあり貴賤の往來常に多くして殊に繁花の比橋上に立つこと能はず欄干には紫銅を以て擬寶珠十八本ありて悉く銘版を刻す其銘に曰洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日域石柱濫觴乎天正十八年庚寅正月日豊臣朝臣之御代奉增田右衛門尉長盛造之

檀王法輪寺は三條橋東爪にあり淨土宗にして本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作古八悟眞寺と號して良忠上人代々の道場法師建立を應仁の亂後荒廢ありしを慶長年中伏見中納言上人再建ありて梅檀王院と号く今略して檀王と呼ぶ伏見中納言上人退院の後又三條橋東に隱居して發中庵主と稱せしが今は尼僧なりと

慶長八年三月十日伏見中納言上人別行の人々を會集して勿體ある御法談ありしに朱衣の青袍を着して光明赫々たる仁王尊の如き人告て曰く我は華嚴經の守護神なり婆珊婆演底主夜神と專修念佛の行者を擁護せんと則袈裟を授けて去りぬ慶長の末に當寺寶藏にあり近年より堂小鎭坐に應驗新なりて常に信心多し

鎭守は加茂大神宮にあり當寺建立の時勸請ありしと云

龍王祠は鴨川の東の岸にあり毘沙門の像を安置す

由未詳

瑞泉寺は三条小橋の南にあり淨土宗にして本尊阿彌陀佛を聖德太子の作なりと開基は二空法師と云ふ

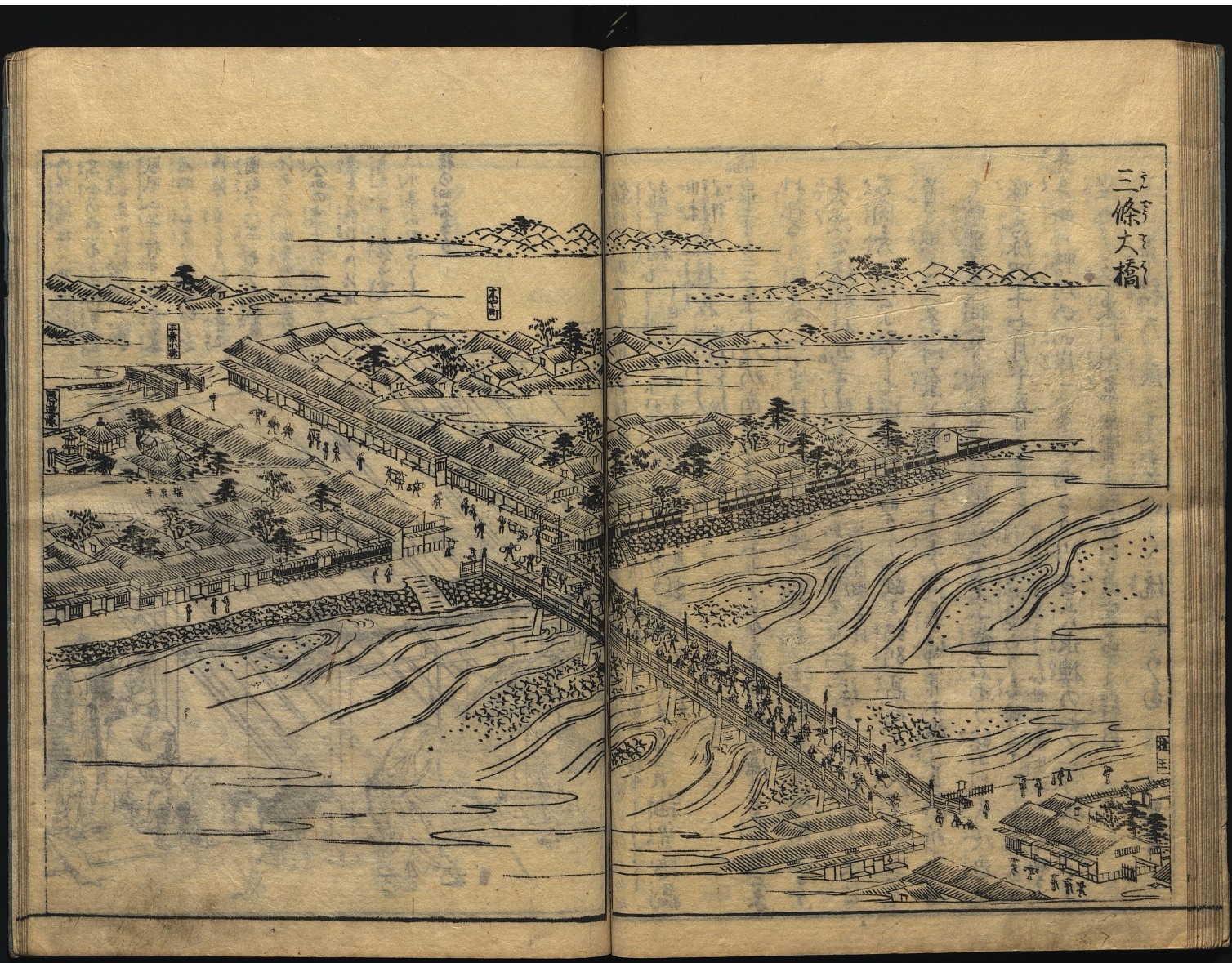
秀次公追悼の爲に建立ありしと則秀次公の母堂瑞龍院殿の菩提所なり

文祿年中に秀次公右大臣秀吉公の勘氣を蒙りて逆心の企ありしと故を以て高野山へ登山を命ぜられ其後に又聚樂第に召寄られ關白職を讓られ三條河原に於て切腹あり其妻妾子女三十余人悉く引出され首を取て三條河原に穴を掘て埋めたり其後塚を築て上に石碑を建て銘に曰秀次悪逆の罪に依て同穴に埋む其後塚を築て上に截石あり銘に曰秀次悪逆塚文祿四年七月十五日と書せり石碑あり妻妾三十余人の墳あり

悉法多院と號し世に畜生塚と云ふ

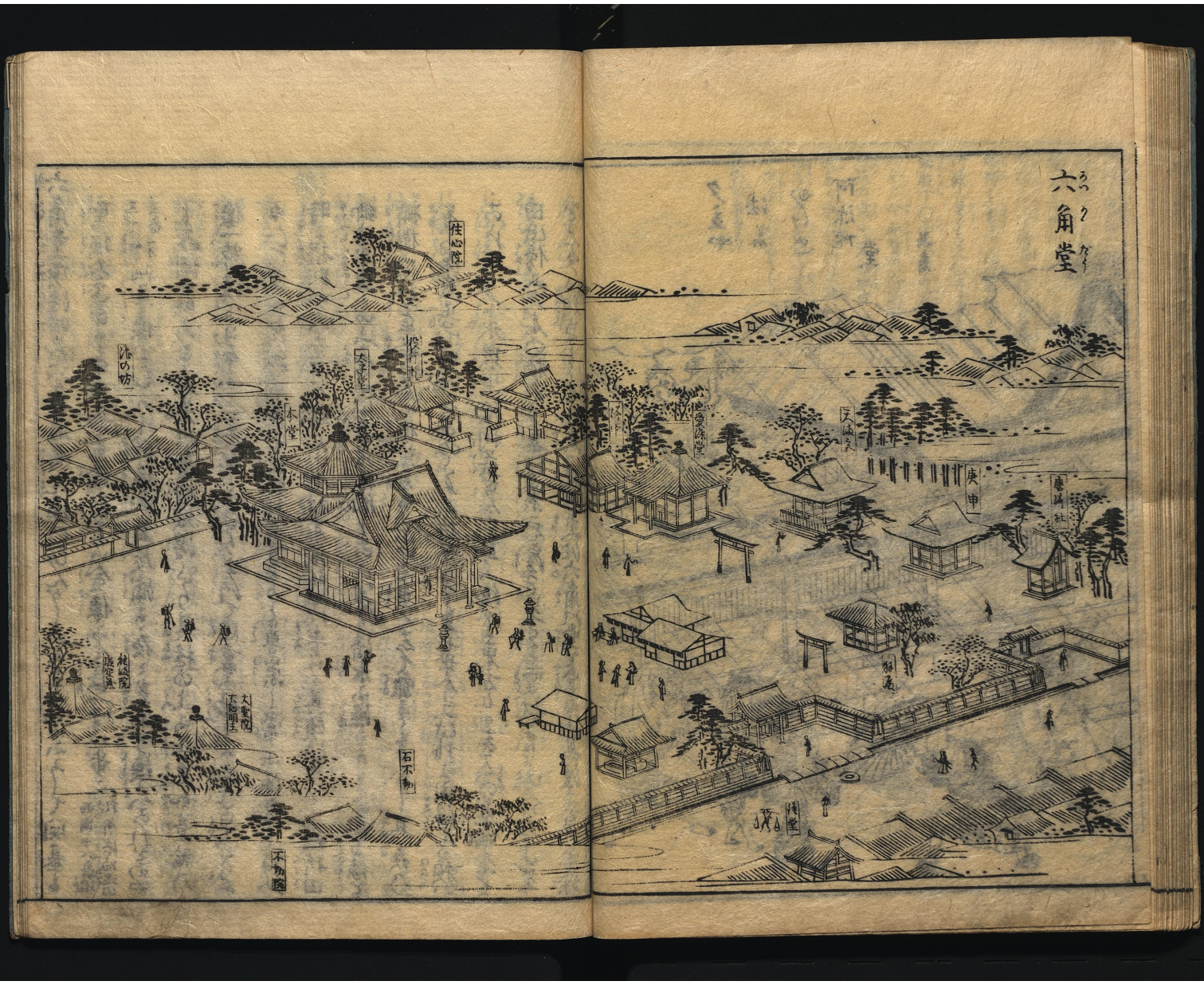
先斗町は鴨川の西岸二条の南より川筋に水樓の如く軒端を連ねて坐敷を出して洛東の風景を賞し酌歌の美客を乘せて群れ飛ぶ有樣は花の結ぶ底より雲ゆく流れの面

鬼貫


三條大橋



御所八幡社八幡町御池通
高倉の西ふあり足利尊氏公
康永年中に勧請せり號を
風〻等持寺しかるを慶
國師暫ありて今の名とぞ
神泉苑そのそばにひろき蓮光
園殿下乗寺ありそれ東ふ
池あり今兩替町御池の小
人あの裏ふ池の旧地なり
遺りし鶏塚ハ御池通
高丸の西の石碑なり其
ハ水車ふめりやう
松の旧名なり


六角堂
性心院
池の坊
本堂
大黒院
不動明王
石不動
不動院
庚申
唐崎社
羽虎
清堂

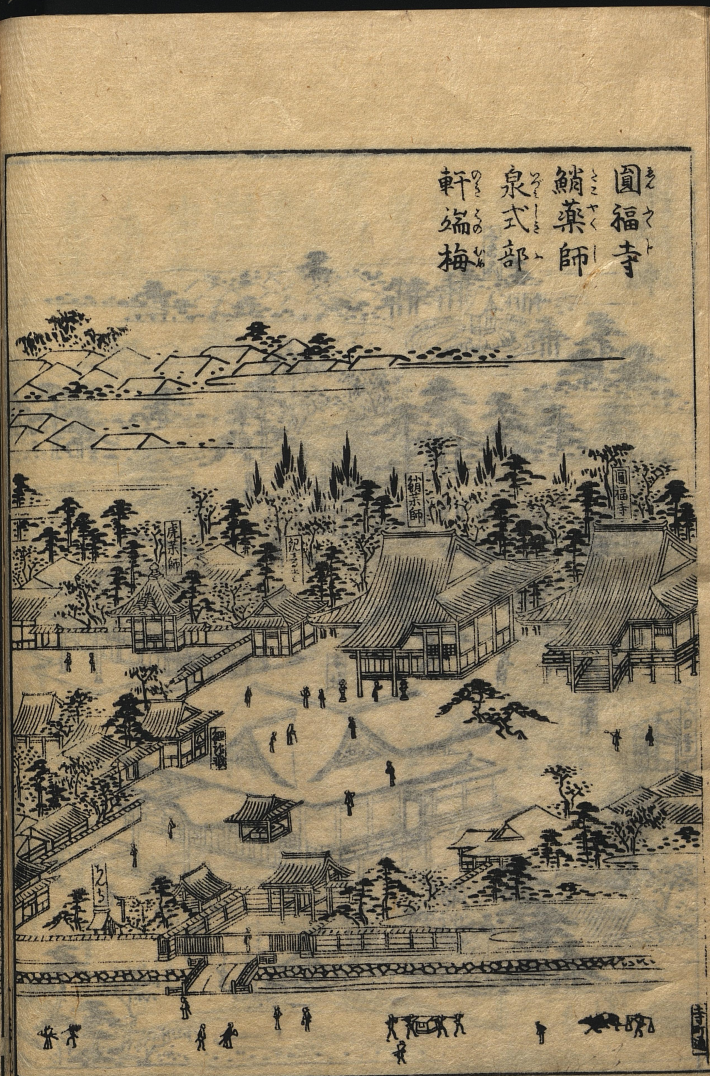
六角堂頂法寺ハ六角通烏丸通のしんにゅうの所にあり西國三十三番
聖徳太子の作尊如意輪観音の金像を安ず長一寸八歩にして
三十番札所此尊像をむかし池坊の僧侶巡行の折ふと岩屋浦より漁人あれをあや
しみ網をおろすに懸れり唐櫃に納め得ざる故其櫃の上に正覚如意輪乃
像一躰縁上日本国の主家ともせよとありて図書ふ献ずるを早く是
をうしなひて果さを我前生七世の持尊ぞうと尊崇し常ふ随身しのみ
時ふ擇別四天王ふ命じて材木ふ求らる其頃此所ふて一株折田
郷土車里にてさがし当ふ俳徊しふ来り清水小澤のんくやしろふ像を
樹ふかけ垂迹として像ふ彫ふ重くおそ離るく来るに其夜乃
夢ふ尊告て曰我をうのくふ持せくる来七世今ふ此地ふ因縁あり願ハ
ふ小尊堂ふて曰我をうのくふ持せくる来七世今ふ此地ふ因縁あり願ハ
おれ祈りて永衆生ふ利益せんと宣ふ終りて東方へうせぬ
日は傍みな木の枝あり毎朝紫雲ふ覆ふて霊香ふうかをる是
をもんのふ祈きくふ依ふ六角堂を営ふ負渡二百尺十餘
歳を経て桓武天皇都ふ遷ふ定らるゝ御営使條路を極むるふ六角堂小
路の中ふ當る皆是ふ妨碍ふくるをふ建立精舎ふ他所ふ移んやいと
ふ法しくふ依ふ黒雲ふりて伽藍自五丈斗ふ小のふ遁ふ故ふ事ゆふく
小路ふ通して都とふるふ（一説ふ高麗國光明寺ふ至り尊像ふ乞ふ依ふの敵
の僧使ふ依ふ遣ふて破ふしふ）
池坊ふ立花　當坊住職の中事慶法師ふ義ふ依ふ愛ふ勲ふ六角ふ
感ふしふ立花の秘密ふ悉ふ授ふ是ふ依ふ其ふ名ふ當ふ
録第七月廿二日ふ向ふして都鄙の門人方ふ募ふ立花の法ふ
錦天神社ふ承極錦小路ふ在ふ當ふ所天満天神ふ鳥居ふ額ふ天満宮ふ
書ふ青蓮院尊英法親王ふ筆ふ拝殿の額ふ寶鏡寺宮理秀院公の筆ふ
宗旨ふ時宗ふして紫苔山歓喜光寺河原院ふ像ふ道場ふ號ふ
男聖飛上人ふ正ふ二年二月十日寂ふ當寺の旧地ふ東二條ふ在ふ
寺しふ千鳥ふ當寺庫裏の傍ふあり
祇當社ふ寺内の鎮守ふして古ふた大皮鮒ふ飼ふ
天満宮ふ勧請しふ

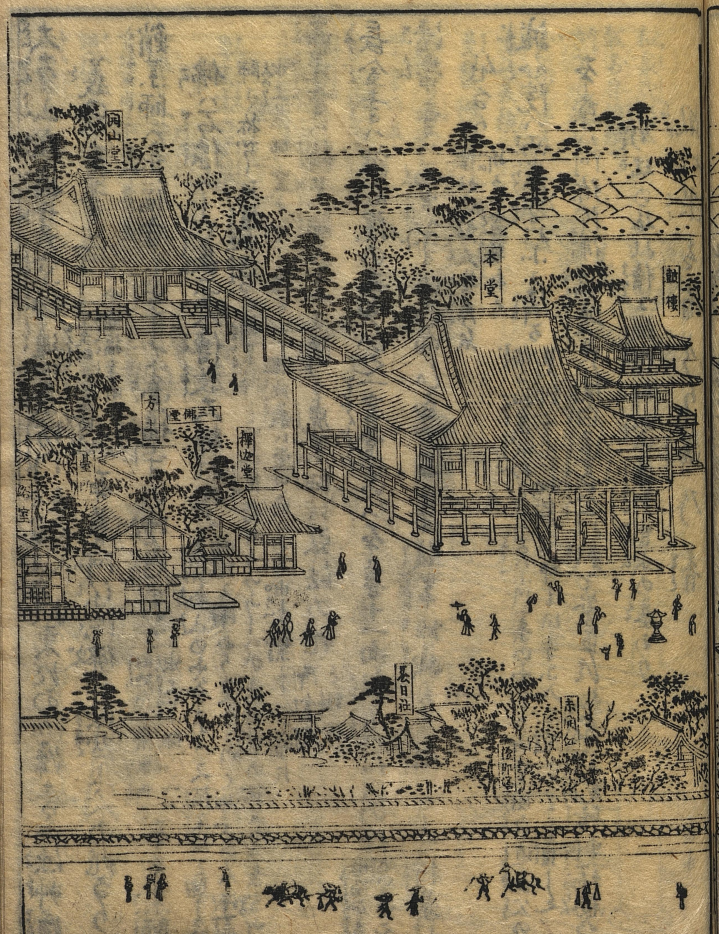


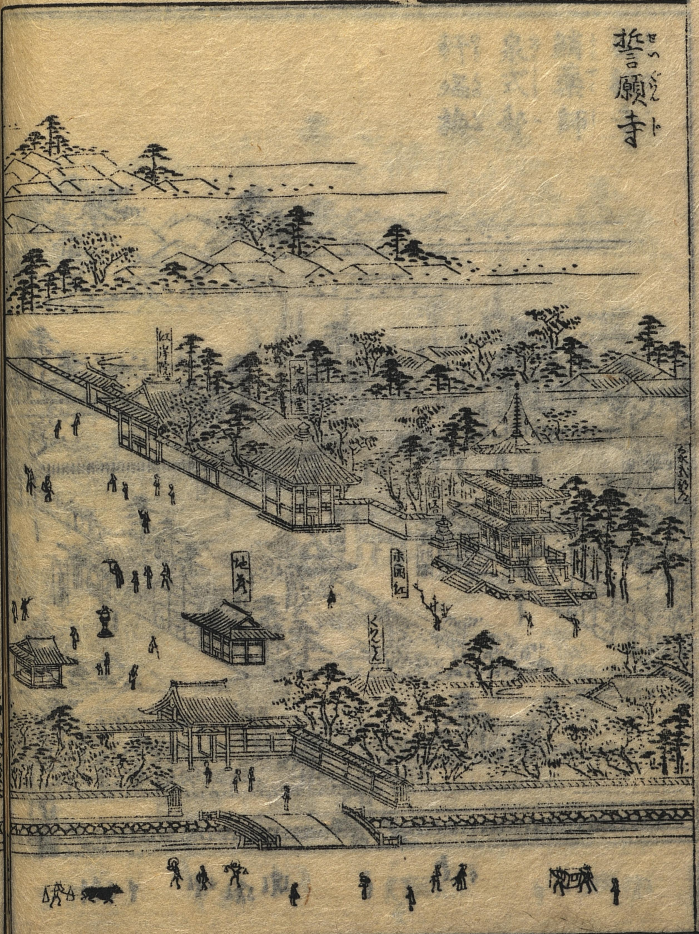


錦天神


役行者
吉堂


圓福寺
鎮守
薬師
泉式部
軒端梅


本堂
鐘楼
三十三間堂
柳池堂
地蔵堂


誓願寺
地蔵堂

大本山圓福寺は京極通四条坊門（今の蛸薬師）東にあり浄土宗浄刕深
義の一本寺にして（今寺町二条坊門）本尊阿弥陀佛は法然上人の作なり
（今圓福寺町という）
鍋薬師は永福寺と号して多福寺の境内にあり（旧地は三条寺町）本尊薬師
水上薬師ともいう
佛は石像にて長二人傳教大師の作と（旧地と澤あり是は別に祕仏の人澤有
師と称ず後世誤って鍋薬師という）風俗せり（今は堂の澤の銘ある三条寺町
水上薬師堂に祀る）○鯉地蔵は堂の前にあり由来詳ならず
西光寺は鍋薬師の北と隣る虎薬師は弘法の作と祕
長金寺は誠仏院の西向にて言堂にて本尊十一面観音は弘法の作（俗に
誓帯寺は西光寺の西向にあり本尊腹帯地蔵と土佛にて行基作
（懐妊の婦人安産祈るに霊驗新し）

作るり

誠仏院は西光寺北隣る草創にて和泉式部しばしば入て居しかりて俗に
和泉式部古井は小川一条の中にあり御堂関白道長公の
彩端の梅は倩々雅僧師紫藤軒言水の墓あり

本尊は阿弥陀佛脇壇は関白道長公和泉式部を安置せし
風流果を有り海乃音

言水



拾遺往生傳の中卷に載せたる極樂に參りて淨土宗となりて添州深谷の一寺を草創せり寺額を
天智天皇の御筆と傳へ惠隱僧都と云ふ
添信僧都と聲を同じて住し十餘世の後裔僧
尊阿彌陀佛の長八尺の坐像
うして佛工賢円子孫の圖兩人の肖像あり
助一の一故春日の神化くもいへ
額は文德天皇の御筆と云ふ
上人の筆之堂内の堺上に
塔を立和八年に草創して本尊
上人の像あり釋迦堂に寶冠釋迦佛を安置
石塔は秀吉公の愛妾松丸殿の墓
辨慶石は方丈の庭に假山の上にあり
手洗鉢は本堂あり羽二重井は方丈のうしろにあり當寺に什物は烟除佛舍利
弘法大師の傳來とぞ又法然上人の一枚起請文等と休和尚の記あり

裏見の中緣は紫竹の杜門
小緣は芳竹の窗

傳聞法然法如來
尼入道同愚癡輩
南无阿弥陀佛

安坐蓮華上品臺
一枚起請文最奇哉

山外遠人虛堂つぬるの唯法然の一大事と
衣を染今日より淨土宗となり
應仁二年二月五日

新勘恩院主休判

佛前所感

當寺の境内に紅梅數株あり如月の比都下れ人こぞふ
未開紅の艶を賞して義貞
えるぐぬ本をうつしうゑ梅花
塔中竹林院より小堀遠州の數寄屋あり
絶倫之日長仏院の庭佳境之世と為る

舍羅


新の水
空也堂

紫雲山極楽院光勝寺ハ四条坊門姥小路の東敲町にあり空也堂と號す
[illegible]
て黄檗高泉和尚の筆なり本堂の額[illegible]宗旨念佛宗にて[illegible]
極楽院ハ何[illegible]跡の筆なり
自化の像ハ空也尊像の脇士ハ地藏毘沙門天の北の脇壇ニ坐像の阿弥陀仏
ハ安置ス是行基の作と云空也上人の像あり 定盛法師香猶
の殿ゝ収て仏ゝ 南の壇上ニ定盛
法師の像ハ安置ス称空也上人の延喜帝第二の皇子ゝ[illegible]ゝ塵外れ無為
ハ楽ミて志頴原ゟ[illegible]ゝ遂ニ出家[illegible]ゝ玉樓金殿をさいて小ゝ鞍馬ゟ奥
ゟ蕭然として山居[illegible]ゝ麋鹿友ゟ来て閑坐を慰ゟ上人ゟ之を憐ミ真誉を
愛[illegible]ゝ事深し一日鹿来ゟと[illegible]ゟ平定盛ゟ[illegible]ゝ
ゟ[illegible]ゝ討ゟ[illegible]ゝ仏い上人ゟ[illegible]ゝ鹿を潜ゟ[illegible]ゝ
ゟ[illegible]ゝ頭ゟ狭て常ゟ[illegible]ゝ猟者定盛ゟ上人の法徳ニ帰入[illegible]ゝ
妻ゟ[illegible]ゝ頭ゟ有髪ゟ俗体ゟて云仏者[illegible]ゝ
を[illegible]ゝて寒中ゟ五三昧市中ゟ[illegible]ゝ仏像[illegible]ゝ深土往生ゟ[illegible]ゝ勧ゟ[illegible]ゝ空
[illegible]ゝ堂殿の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ


二条御城
天満天神


神泉苑
弘法大師
そとでん



光坂卿ノ守敏ハ諸龍ヲ呪シテ瓶中ニ入弘法大師ハ天竺無熱池ノ善女龍神ヲ請シ天下旱魃レ怨ヒヲ拾テ感應ヲ蒙ル小野小町モ和歌ヲ詠シテ雨ヲ降シ鷺ハ宣旨ヲウケテ羽ヲ伏蹲レ官人ハ安ク〳〵捕ル帝ハ感アリテ位ヲ爵ヲ賜ハリシヲ所ノ人白河院ハ御遊ノ時猫ニ位ヲ賜ヒシヲ此ノ入テ金甎輪ノ左ヲ喰ノ上ヨリ見ヲ銘ヲ拔ハ左ノ小官徳院ハ御池中ニ入テ金甎輪ノ左ヲ喰ノ上ヨリ見ヲ銘ヲ拔ハ左ノ小官徳院ハ御六条判官為義ノ此ノ劔ヲ編ル祇園會ヨリ始ル弘仁二年ヨリ始ル帝ハ苑中ニ於テ花ノ宴アリ是ヲ宴ノ始ト本朝文粋ニ源順ノ曰神泉苑ヲ禁苑ノ真ニヲリ紅林地廣シテ楚客ノ舟中ニ石緑池水高シテ呉江ノ眼下ニ縮ムヲリ星霜漸累リ遂ニ建保ノ頃ヨリ荒廃ニ及ヒ累代ノ乱後ハ武別ノ禅門築地ヲ高シ門ヲ堅テ修造アル真後アリテ旧ノ如クヲヘテ其ノ沉柴ヲ積ル僧寛雅ト云人官中ヲ再興シ真言ノ霊場トシテ北野右近馬場ノ神泉苑ヲ修ヲリシカドモ是ヲ内裏ノ遺ヲリ

ちかやうの神の泉のそのうちもとかとそ此の初めなるら

宗時

ISSEIDO

不来平薬師を釜の座二条上ル西側にあり本尊ハ比叡山傳教大師
一刀三禮七尊彫刻しの内日本七佛の一体なり住昔ハ法花横舎
に一院の設け安置しある真浦尾張ノ山田郡に何某石馬允明長
と云武士あり明暮尊敬しまいにおくに年夏六月京鎌倉乃我
朋く高名有しの弐洲川の戦ニ深手負ひ此所ニ来りて此薬師
一人の僧と化して草をりろくの内明長ハ是を伝聞いと立所に
疵平癒し本国ニ帰るしと寛喜二年夏六月ころを名
そげしく極寒のさくるれい疫病流行しそこの世に多し
給ふ此薬師院その外ハ皆そ寛く一切の病ハ前ニ来ハ疫病悉
除ろ給ふことぬらくしあらしハ厭液油ハ余りて世に是を簡多し
むに貴紗拝集し給ふ清の車疫病忽平癒を法に織田信長濃尾
在住のころ攻藤ム城守し薬師を今の所に移そらくまふ都鄙
の貴賤数多信仰し霊験あり事委記しらく